

No. 398【2020年3月13日配信】

中世の館 展示コーナーリニューアル (担当: 児玉)

こんにちは。文化財課の児玉です。今回は、中世の館の展示コーナーリニューアルについて紹介したいと思います。

中世の館は、浪岡城跡を中心とした歴史展示室と文化ホールを備えた複合施設として、平成4年(1992)8月に供用を開始しましたが、この度、第1展示室の展示コーナーを開館以来はじめて大きく見直し、令和2年(2020)3月20日(金・祝)にリニューアルオープンする運びとなりました。

今回のリニューアルでは、「国史跡 高屋敷館遺跡」及び「川原館遺跡」の出土品やパネルを中心に展示しました。この2つの遺跡の概要は、以下のとおりです。

国史跡 高屋敷館遺跡は、国道7号浪岡バイパスの建設に先立ち、平成6年及び7年に青森県埋蔵文化財調査センターの発掘調査により、壕と土塁に囲まれた環壕集落が発見され、その重要性から平成13年1月29日に国史跡に指定されました。その後、平成13年から史跡整備等を開始し、平成31年1月に整備が完了したところです。本展示では、10世紀から11世紀の土器や鉄製品、木製品などを展示しており、珍しいものとしては、宗教的な意味合いの強い道具として考えられている「^{しゃくじょう}錫杖状鉄製品」や碁石と思われる石製品があります。

川原館遺跡は、浪岡北畠氏の居城であった浪岡城跡から、直線距離にして南側へ約300m離れた場所にあります。浪岡北畠氏に関連する中世城館跡と考えられており、「浪岡御所」とされた浪岡城に対して、「川原御所」と呼称された城館と推定されています。平成25～27年度に、道路建設に伴って、青森市教育委員会がこの遺跡の発掘調査を実施しました。その結果、竪穴遺構・土坑・溝跡・井戸跡などの遺構を検出したほか、土師器・須恵器・擦文土器などの土器のほか、陶磁器・木製品・鉄製品・土製品・石製品・古銭が出土しました。検出された遺構・遺物の時期は、平安時代から近世まで認められましたが、その中心は平安時代にあり、浪岡北畠氏が活躍した時期に相当する遺構・遺物は断片的でした。

今回のリニューアルでは、展示だけではなく、子どもたちが楽しく学ぶことができるクイズ形式の学習シート、貝合わせやパズルなどのハンズオンコーナーも設置しています。



新設された高屋敷館遺跡展示コーナー